

熊本大学広報誌

熊大通信

vol.

51

2014 WINTER

Kumamoto
University
Library

特集Ⅰ

古文書がつなぐ 今と昔、地域と大学

歴史資料を活用した熊本大学の研究

特集Ⅱ

集まれ！新たな知の拠点へ。

附属図書館中央館リニューアル



CAMPUS SCENES キャンパスの風景

紫熊祭ーオープニングセレモニー

11月2日(土)~4日(月・振)、「第2回紫熊祭」が開催された。

オープニングセレモニーの最後を飾ったのは、

昨年も好評だった「風船飛ばし」。

若者の夢を詰め込んだようなカラフルな風船が空いっぱい

に舞い上がる様子に

大きな歓声と拍手が上がった。



書道部のステージパフォーマンスによる今年のテーマ「サプライズ!!」



熊大通信 vol. 51

2014 WINTER

熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

- 【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119
Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp
- 【編集】 熊大通信編集委員会
田中 智之／委員長・大学院自然科学研究科
中川 順子／文学部
黨 武彦／教育学部
大脇 成昭／法学部
中田 晴彦／大学院自然科学研究科
永田 千鶴／大学院生命科学研究部
首藤 剛／大学院生命科学研究部
田中 尚人／政策創造研究教育センター
西川 洋子／マーケティング推進部広報戦略ユニット
- 【制作】 株式会社カラズプランニング

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 古文書がつなぐ 今と昔、地域と大学
歴史資料を活用した熊本大学の研究
- 09 研究室探訪 Passion, Action, and Creation!
オリジナルの触媒を使って新反応を創出しよう!
大学院自然科学研究科 入江 亮研究室
- 11 特集Ⅱ 集まれ!新たな知の拠点へ。
附属図書館中央館リニューアル
- 15 国際交流 「熊本大学フォーラム」第10回記念特別企画
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙/リニューアルオープンした熊本大学附属図書館中央館

特集Ⅰ

古文書がつなぐ 今と昔、地域と大学

歴史資料を活用した熊本大学の研究

熊本大学の特徴の一つとして、熊本の歴史にまつわる膨大な資料を有すること、そして、それらを実際に学生が学習・研究に活用できる体制があります。

熊本藩主・細川家に伝えられた藩政史料である「永青文庫細川家資料」や「阿蘇家文書」、「松井文庫」など、江戸から明治にかけていわゆる支配階級の下に蓄積された文書をひもといた時、見えてくるものは、「お殿様の暮らし」だけではなく、お上に物申して社会を変えていく力を持った生き生きとした民衆の姿です。

本特集では、永青文庫研究センターが取り組む「永青文庫」の整理・研究から見えてきた、当時の民衆と統治する側との関係について述べるとともに、直に古文書に触れ、読み解き、そこからさまざまなことを学び取っていく学生たちの姿を紹介します。

永青文庫と 永青文庫研究センター



永青文庫研究センター

された品々を見ることができ。

熊本大学(附属図書館)には細川家北岡邸の倉に保管されていた数万点に上る歴史資料や書籍が昭和39年(1964年)に寄託され、以来、文学部の教育・研究などに活用されてきた。平成21年(2009年)

には「文学部附属永青文庫研究センター」が設置され、永青文庫資料の拠点的研究機関として、さらには文化行政機関との連携により地域文化振興に貢献し、人文社会科学系分野の人材育成に資することを目的として、資料の目録作成をはじめとした地道な調査・研究を重ねている。

「永青文庫」とは、細川家に伝来した美術品や書籍、歴史資料等を所有・管理する財団法人のこと。収蔵品は東京都文京区目白台にある細川家下屋敷で一般公開されているほか、熊本県立美術館「細川コレクション」常設展示室」でも美術館に寄託



資料に一つ一つ目を通し目録を作成。作業には学生も大きな役割を果たしている。

古文書が語る民衆の姿

永青文庫研究センターの取り組み

寛永9年(1632年)から幕末まで熊本藩を治めた細川家には、国宝の美術工芸品等を含む多くの歴史的資料が残されています。それらは公益財団法人「永青文庫」



19世紀の熊本藩で寄附や奉仕など領内住民の社会活動を評価、褒賞した藩政記録「町在(まちざい)」。105冊あり、記録の総件数は2万4000件に上る。ちなみに文久元年は1861年。目録は冊子として刊行されているほか、データベース化されWebサイトで検索することもできる。

※「十九世紀熊本藩人民評価・褒賞記録「町在」解析目録」
<http://kijima.lib.kumamoto-u.ac.jp/>

が管理していますが、細川家北岡邸(熊本市)の倉に保管されていた4万3000点余りに及ぶ古文書・書籍などは「細川家北岡文庫」として、昭和39年(1964年)、本学附属図書館に寄託されました。永青文庫研究センターではこの膨大な資料を解読し、総目録を作成する作業を行っています。

中心となって作業を進める永青文庫研究センターの稲葉継陽教授は語ります。「これらの中で最も多いのは『覚帳(おぼえちょう)』に代表される地域行政の記録です。特に1750年頃に実施された宝暦の改革以後、藩のさまざまな行政を司る部局ごとに、記録が残されるようになりま

した。これらは廃藩置県に際して全て県に移管されるのですが、他県ではその後、廃棄されたり民間に払い下げられたりなどしてほとんどが散逸



文政6年(1823年)「覚帳」。熊本藩の地方行政担当部局である「郡方(こおりかた)」が毎年作成した記録のうちの一冊。分厚い冊子の中には「手永(下記コラム参照)」の農民・村役人(惣庄屋)層が立案した地域施策が藩の政策となるまでの過程が記録されている。日本近代行政の形成過程を示す重要な歴史資料である。

してしまいました。しかし熊本では、今もかなりの部分が伝来し、質・量ともに全国有数の資料となっています」。

なぜ、熊本では散逸を免れたのでしょうか。稲葉教授によると、それは旧藩士たちが自分たちの築いてきた行政システムに自負心を持っていたから、だそうです。「熊本藩の統治制度は、他藩が模範とするような優れたものでした。その記録を失ってしまうことは、システムを運営してきた自分たちのアイデンティティを失ってしまうばかりでなく、近代日本にとっても大きな損失となると考え、彼らが、積極的に県から払い下げを受け、北岡邸の倉に戻し入れたため、今、私たちはこれらを手にとることができるのです」。



江戸の藩主から惣奉行に対しての書状である「細川忠利達書」。この時代の地域づくりが、地域からの提案を統治側が認めるという方法でも行われていたことが分かる。

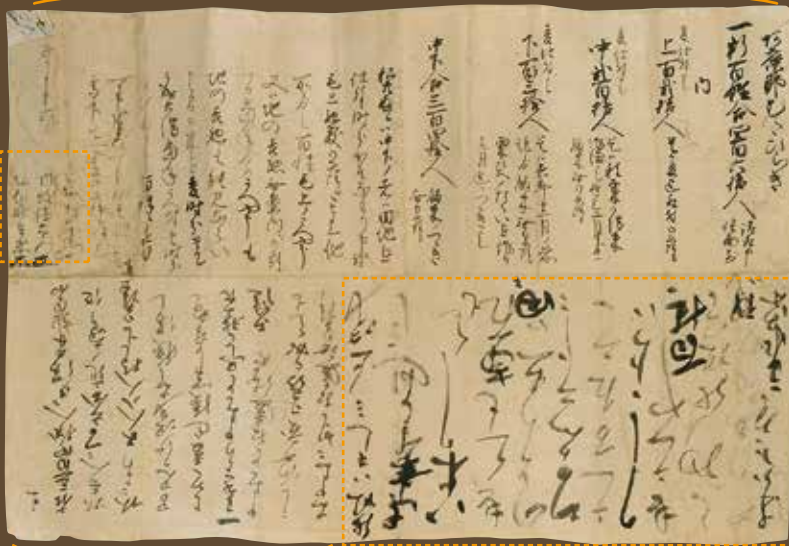
江戸時代の行政単位「手永」

「手永」とは、細川家が導入した行政制度(手永制)によって分けられた行政区画のこと。細川家が小倉藩を治めていた時から行われていたもので、肥後細川藩初代藩主・細川忠利が熊本にも取り入れた。各手永には最高責任者として「惣庄屋(そうじょうや)」が置かれ、惣庄屋は年貢の請け負いなど手永の運営を行うとともに、手永を代表して藩への上申などを行った。現代の郡と村の中間に当たり、廃藩置県によって制度は廃止されたが、地域の実体は現在にまで引き継がれている。

古文書を読む！

図解「阿蘇郡惣庄屋衆伺書」

惣庄屋が書いた上申書部分。阿蘇に農民として入植させた460人を上・120人、中・210人、下・130人に分け、阿蘇の気候に慣れておらずほとんど作物が採れなかった中・下340人のため、藩米を貸すか与えるかしてほしい、そうでなければ阿蘇の開拓事業はうまくいかない、と訴えている。



□□□右衛門尉(花押)
□□□内牧徳右衛門(花押)
坂梨助兵衛(花押)

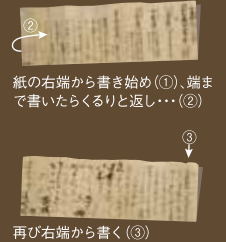
惣庄屋たちの署名。手永の名称を名乗っている。「内牧」や「坂梨」は今も地区の名前として阿蘇に残る。

惣庄屋たちが細川忠利に対して上申内容の骨子をもって訴えかけた部分。

忠利の自筆部分。米を貸したとしても年貢と共に返させることになり、農民に負担をかけるだろうから、与えることにはどうかと、役人に指示を与えている。

古文書豆知識

「阿蘇郡惣庄屋衆伺書」のような文書の形態を「折紙(おりがみ)」という。紙を縦に二つ折りし、ひっくり返しながら文章を書き、ひっくり返すため、広げると上下が逆さまになる。



資料から見えてくる行政システムの一例として稲葉教授が挙げたのが、江戸時代のごく初期、寛永12年(1635年)に書かれた「阿蘇郡惣庄屋衆伺書」と「細川忠利達書」。前者は惣庄屋から藩主に宛てた上申書で、阿蘇の湿地を開拓するための入植者たちの窮状を訴え、藩の助力を要求するものです(図解参照)。

また、「細川忠利達書」では、阿蘇で厳しい暮らしを送る入植者たちを大津の宿場に住ませ、阿蘇へ通わせて開拓を行いたいという上申に、その通りにするようにと忠利が答えています。「開墾と宿場の整備を同時に行おう」という地域づくりの提案が地域住民側からなされたものであり、藩もまた住民の力を活用し、実態に即した統治を行おうとしています。その中間にいたのが惣庄屋でした。地域からボトムアップしていくシステムが、江戸時代の初期に既に始まっていたことが分かります」。

稲葉教授はさらに続けます。「戦国から江戸への時代の大転換期、地域住民は自分たちで声を上げ、行政を動かしていました。再び社会が大きく変わりつつあるのを感じる今、かつてそのような時代があったと知ることは、未来に生かせるヒントにつながるかもしれません。古文書を読み解くことで過去と現代、そして未来がつながります。自分たちの行政システムの記録を未来に残そう」



文学部附属永青文庫研究センター 稲葉 継陽教授

戦乱の中世から長期にわたって「天下泰平」の世が続いた江戸時代への社会と国家の移行過程を把握することを主な研究テーマとする。平成21年(2009年)、永青文庫研究センター発足とともに、副センター長に就任。

[永青文庫研究センター]
<http://www.let.kumamoto-u.ac.jp/eisei/>

とした旧藩士たちの意志を継ぎ、この膨大な資料を活用できる体制をつくるのが、熊本大学が果たすべき使命なのではないでしょうか。

熊本大学附属図書館ではHPに「永青文庫の目録を掲載しています。永青文庫研究センターが作成中の総目録とは異なります」
※細川家日記 古文書分類目録
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/eisei/index.html>



三澤 日本史学研究室の学生は2年生から研究室に所属し、実際に古文書に触れるわけですが、初めて古文書と向き合ったころの思いを教えてください。

大津山 私は在学時代、近世後期の地域社会の研究、特に「手永」がどのように運営されていたかを研究していました。最初はもちろん、書かれている文字を解読することはできません。それでも、古文書の中には江戸時代に起きていたことや当時の人々の考え、行動などがリアルに現れてくるので、現代を生きる私が過去と直につながっているような感覚を味わえ、面白いと思っていました。

田中 演習の最初の授業で、稲葉先生が「折紙」をお見せになりながら、「一部分だけボロボロになっているのはなぜだと思っ？」と問われました。それは折った時、一番外側になる部分で、大勢の人の手に回覧されたため傷んでいたわけなのですが、「書かれていることだけではなく、紙そのものから

今につながる歴史学研究

古文書に触れて学ぶ学生たち

本学では、学生の学びに、「永青文庫」など本学が有する豊富な古文書を活用しています。

文学部歴史学科日本史学研究室の学部生、院生、卒業生に集まってもらい、指導教員である三澤 純准教授の下、

実際に古文書に触れながら研究できる意義について語っていただきました。



山都町教育委員会生涯学習課
大津山 恭子さん

大学院社会文化科学研究科博士前期課程・平成23年度修了。在学時の研究テーマは近世後期の地域社会。

「読み取れることもあるんだ！」と驚き、生の史料に触れることの面白さを感じました。

三澤 皆さんは3年生の夏休みの「歴史資料学野外実習」で古文書が保存されている現場に出掛けていくわけですが、実習ではどのようなことを感じましたか？

小野 私は平成24年度実習に大学院生として参加し、日本三大下り宮の一つとして有名な阿蘇郡高森町の「草部吉見神社」にまつわる古文書の解読を行いました。その中で、神社に伝わる祭礼の神幸行列の順番が、天明2年（1782年）に書かれたものと今とではかなり違っていることに気付いたのです。

三澤 長い歴史の中で口伝されていくうち、いつの間にか順番が変わってしまったのでしょうか。

小野 その後、神社では行列を天明年間の順番に戻されたと聞いています。このようなことがあると、古文書が読める喜びを感じますし、地域に伝わる古文書を読み解くことはそこに暮らす人々が自分の地域を見直すきっかけとなるということを実感できますね。

大津山 地域に伝わる古文書を解読すると、その土地のインフラ整備の経緯や、土地の利用法、生産物、年貢の支払いについてなど、普通の人々の暮らしが見えてきます。それらは地域の歴史として今に続いています。歴史は地域の個性を形づくるものであり、それを知ることは地域への愛着を増やすこと

Message

OBからのメッセージ

昨年度、静岡大学人文社会科学部に着任し、日本近世・近代史の教育・研究活動に従事しています。熊大時代は先生方や地域の皆さんのご厚意の下、附属図書館で「永青文庫」などの資料群を調査したり、古

文書や史跡の調査で県内各地を歩き回ったりなど、非常に忙しい時間を過ごしました。大学院の友人たちと自主的な研究会を運営したことも、忘れられない思い出です。熊大での経験をもとに、現在は静大の学生たちと地域の古文書などを調査していますが、彼らが歴史研究の面白さに気付いてくれたときは非常にうれしく、大きなやりがいを感じます。

私は、古文書が持つ奥深い魅力にとりつかれてしまった一人ですが、そうした魅力的な資料群に日常的に接することができる熊大は、研究環境として非常に恵まれていると思います。後輩の皆さんには、ぜひそうした環境を存分に活用して、21世紀の日本史研究をけん引してほしいと願っています。

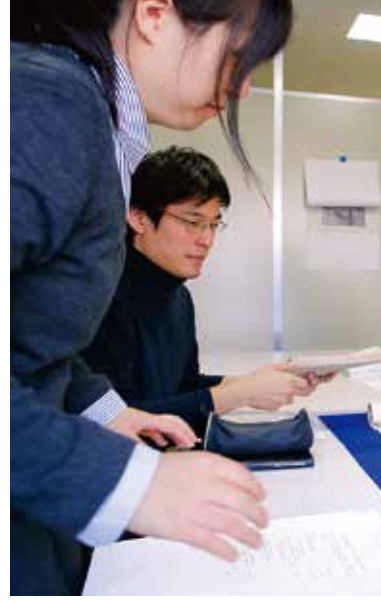


静岡大学人文社会科学部歴史学コース
今村 直樹准教授

熊本大学大学院文学研究科歴史学専攻修士課程・平成15年度、名古屋大学大学院文学研究科博士課程・平成21年度修了。熊大在学時の研究テーマは19世紀後半の地域社会。現在は明治維新史、特に地域行政の仕組みや民衆運動の性格などに関心がある。

につながるのではないのでしょうか。

三澤 熊本大学には「永青文庫」から寄託された古文書群がありますが、この中に幕末期の惣庄屋たちからの意見書が含まれ



ています。これには藩側の回答が記されていないのですが、玉名郡長洲町の「関家文書」にその回答部分が記されたものがありました。「永青文庫」だけではなく、地域に残されている史料も併せて立体的に見ていくことで、歴史学の研究の幅が大きく広がることをよく理解してほしいと思います。

田中 熊大では細川家に伝わる史料から地域住民の生活に密着した史料まで、幅広く古文書に触れることができ、そのありがたさを感じる機会が多いです。

三澤 大学の授業で古文書の現物に触れる機会をカリキュラムに組み込んだり、野外実習で地域に伝わる古文書を解読したり

地域の記憶を 受け取り、伝える。

特集コーディネーター
熊大通信編集委員 中川 順子

うことを意味します。「永青文庫」をはじめとする歴史資料には、熊本の地に暮らし、自らの力で村や町を支えた人びとの生きた証しや知恵が詰

記憶や記録が散逸する

ことは、自分たちのこれまでの歩みとよ

まっています。過去の経験をどのように今に伝え、後世に残すか。今回の特集では、その作業に携わる歴史研究者たちの研究、教育の現場を紹介しました。

永青文庫研究センターでは研究活動として細川家伝来の古文書を、日本史学研究室では授業の一環として熊本の各地に残る古文書を、解読・調査し、その成果を目録や報告書、書籍として刊行しています。それは途方もなく時間のかかる、



博士前期課程日本史学専攻2年
小野 航さん

近世初期の熊本藩で、惣庄屋が形成されていく過程を研究。将来は古文書や歴史に絡んだ職種を希望。



文学部歴史学科日本史学4年
田中 希和さん

近世の熊本藩の身分制度について研究中。来年度は大学院に進学し研究を続けたいと思っている。



文学部歴史学科
三澤 純准教授

日本近現代史専攻。平成25年に重要文化財に指定された「岩倉具視関係史料」の刊行事業に、編者として関わる。

できるのは、少人数教育体制である熊本大学ならではの長特です。この恵まれた環境

を、学生の皆さんが大いに活用してくれることを望みます。

実習 歴史資料学野外実習

日本史学研究室が学部3年生を対象に毎年夏に行う実習。また、大学院生は当実習を企画・調整・立案する立場で参加する。地域に残る古文書のうち未調査のものを優先して現地に赴くこともあれば、地域からの要請を受けて調査することもある。昨年度の実習は後者のパターンで、阿蘇郡高森町の「草部吉見神社」所蔵の「芹口家文書」を調べた。

まず、学部生たちが1点1点の史料について目録を作成し(写真)、大学院生と教員がその内容を検討の上、学部生一人一人が詳細に調べるべき史料を決める。学部生は決められた史料について解読文を作成したり、その史料の時代背景を調べたりして、最後は地域の関係者をお招きして調査結果を報告する。その成果は毎年、報告書として刊行している。

この時の実習では神幸行列の順番についての発見以外にも、隣村との境界線に植えられた杉の木が現存していることに気付かれた住民の方と一緒に学生も現場を見に行った。研究室のメンバーたちは、調査の成果を真剣に受け止めずに行動に移す住民の方たちの姿を見て、自分たちの活動が確実に役立っているという強い手応えを感じた。



極めて地道な作業です。しかしその作業があるからこそ、現在を生きている私たちは過去からのメッセージを受け取ることができ、さらには未来の人たちへと伝えることが可能となるのです。

古文書を中心につながる過去と今、地域と大学研究と人材育成。それらから紡ぎ出されるものをこの先へと引き継いでいかねばなりません。地域に根差す熊本大学はこの営みを見守り続けます。



文学部歴史学科 准教授

大阪大学大学院文学研究科博士課程修了後、大阪大学文学部助手を経て、平成15年熊本大学文学部講師、平成19年より現職。専門は近世イギリス都市社会史、近世ロンドンにおける移民問題や帰化制度を通じて、近世イギリス社会の自己・他者認識の把握を主な研究テーマとする。授業では当時の女性や生活文化の問題を扱っている。

研究室探訪

Laboratory Exploration

入江亮研究室

大学院自然科学研究科

理学専攻化学講座

有機化合物の合成方法を研究する有機合成化学の中でも、入江亮研究室では主に酸化反応による合成方法を探っています。酸素酸化反応には触媒が必要で、例えば生体内で酸化反応(代謝)が起こる時は酵素が触媒として働きます。研究室では酵素に匹敵するような優れた触媒を見つけ、空気中に豊富にある酸素を使って新たな有機化合物を効率的に官能基化^{*}しようと取り組んでいます。また、化合物の“背骨”ともいえる「炭素-炭素結合」を構築する方法(酸化的カップリング反応)なども研究しています。

実験で使う触媒の中には研究室生まれのものも。「市販の触媒では想定内の反応しか得られないことが多いのですが、オリジナルの触媒だと大きなブレイクスルーが生まれるかもしれません。他人の研究のコピーはしない。なかなか成果が上がらず苦しい時もありますが、根気よく続けていれば必ず新しい発見に出合えます」と入江教授。

最近、入江研究室では、不斉合成^{**}に用いる触媒の合成実験の過程で擬アズレンの骨格を持つ有機化合物を偶然発見。当初は“不要品”とみなされたこの化合物は、実は複雑な構造を持つ特殊なものだという、大きな発見となりました。

入江教授は学生たちに、“気づき”“発見する”力を身に付けてほしいと語ります。「まず、“分からないことがいかに多いか”を学び取り、そして、有機合成化学の可能性は無限大だということを感じてほしい。そうすれば、想定外の結果から新たな発想ができる人になれるのではないのでしょうか。研究室の合言葉は“Passion, Action, and Creation”。「情熱を持って、実験を続ける人だけが、何かを創造することができます。自分の研究に誇りを持ち、有機合成の世界を変えるんだという思いで、研究に取り組んで欲しい」とエールを送ります。

^{*}官能基化・・・「炭素-炭素結合」などの骨格にくっつくことで、骨格の持つ性質に、さらに独特の性質を与えるグループを形成すること。

^{**}不斉合成・・・同じ組成でありながら化学構造が右手と左手のように異なる光学活性体を作り分ける技術。光学異性体は、生物にとってどちらか一方のみが機能、または毒性をもつことが多いため、必要とする光学活性体を選択的に化学合成することが望まれる。



分子の流出速度(吸着力)の差を利用し、シリカゲルを使って化合物を分離精製する「シリカゲルカラムクロマトグラフィー」。

密着! 入江研究室

有機合成の世界を変える発見を目指し、日々研究に励む入江研究室におじゃましました。

lab's data

[入江研究室データ]

□ 研究テーマ

- I. 空気中の酸素を酸化剤とする触媒的不斉酸化反応の開発
- II. 酸化還元不均化反応を鍵とする触媒的不斉環化芳香族化・異性化反応の開発
- III. ヘテロヘリセン類の不斉官能基化の開発
- IV. 擬アズレン骨格を含む π 電子共役系化合物の創出
- V. 生理活性を有するカルバ糖の合成



軸不斉をもつ擬アズレンの構造(右)とらせん状にねじれたヘテロヘリセンの構造(左)。

□ メンバー

入江亮教授、大学院生7人(うち1名国内留学中)、学部4年生4人

□ OB・OGの進路

東ソー株式会社、花王株式会社、大塚化学株式会社、株式会社 ADEKA、日本触媒株式会社、AZエレクトロニックマテリアルズ株式会社、和光純薬工業株式会社、ダイソー株式会社、高校教諭 ほか

Interview:

予想と違う結果が出た時の方が面白い!

大学院自然科学研究科

博士前期課程理学専攻2年 古澤 将樹さん

プラスチック製品や洗剤、医薬品など、私たちの身の回りには有機化合物が溢れています。私は人のためになる研究をしたいとの思いがあり、人に最も身近な分野として有機合成化学を学べるこの研究室を選びました。

研究室に入ってからの大きな出来事といえば、擬アズレンの骨格を持つ今までにない構造をした有機化合物を発見したことです。元々これはヘテロヘリセンを作る過程で見つかった副生成物に過ぎず、生成量も全体の5%しかありませんでした。この化合物の形に引かれた私は、これまでの経験を生かし試薬、溶媒、温度など条件をさまざまに変えて実験を行ったところ、擬アズレンだけを100%の収率で合成することに成功したのです。狙ったとはいえ、ここまで成果が出たのには正直驚きました。最初は偶然に見つけた反応も、今ではそのメカニズムが明らかになり、これを足掛かりに新たな合成反応をいくつか開発することができました。

このように思いもよらない結果から新しい発見があるのが、有機合成化学の面白いところ。来年は博士後期課程に進み、研究を続けたいと思っています。





Passion, Action, and Creation! オリジナルの触媒を使って新反応を創出しよう!

13:00



週3回、学生たちは自主的に勉強会を開く。有機化学に関する文献を読み解きながら、ディスカッションし理解を深め合う。

11:30



器具や試薬が所狭しと並ぶ研究室の一角で、合成に使用するボロン酸の結晶をガラスフィルターでろ過中。

10:30



磁力を利用する「マグネティックスターラー」を使い、フラスコの中の攪拌(かくはん)子を回転させながら、有機化合物ヘリセンを合成。



集まれ! 新たな 知の拠点へ。

[特集Ⅱ]

附属図書館中央館
リニューアル

本学附属図書館中央館が、2013年10月1日にリニューアルオープンしました。“静”と“蓄”(アーカイブ)の空間という従来の図書館のイメージを覆す“動”の空間としての機能が新たに加わり、学生のより自発的な学修を支援する場として、注目を集めています。



3



4



2

1階の「アクティブエリア」は、学生の討議、プレゼンテーション、ゼミ活動といった“動”の要素を奨励する場。2階は“静”の空間。書架が並ぶ中、一人一人が集中し、落ち着いて学修できる。3 印象的な総ガラス張りの外観。4 「Kumamoto University Library」の文字は7色のライトアップが可能。「祭熊祭」時には紫にライトアップされた。5 “動”の空間・1階と“静”の空間・2階をつなぐ階段部分は、2階に張り巡らされたガラスのお陰で1階の物音が2階に伝わることはほとんどない。

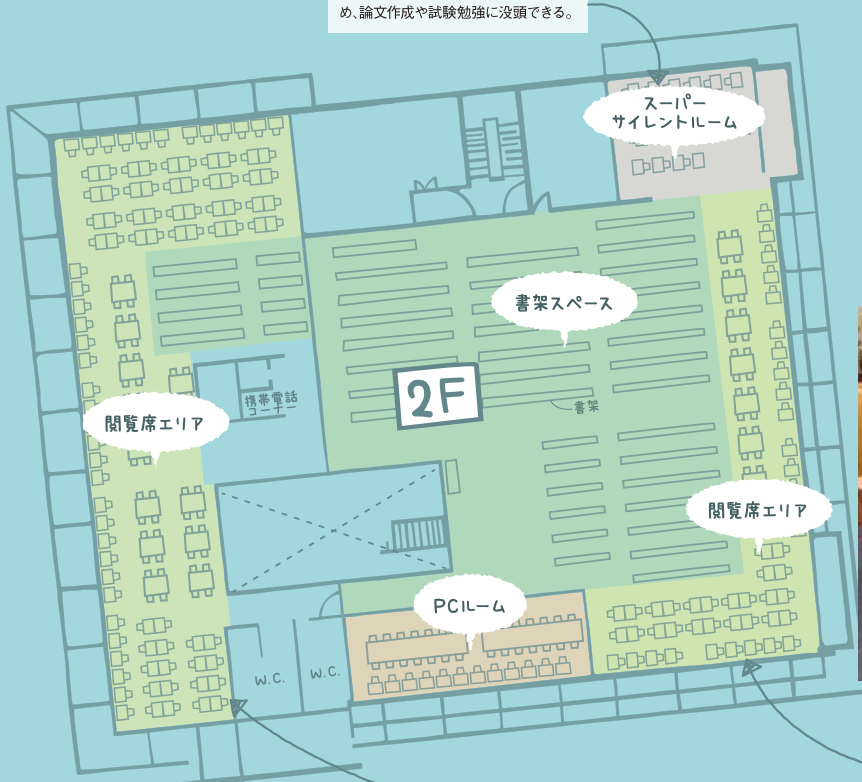


スーパーサイレントルーム
附属図書館内で最も静謐(ひつ)な個別学修空間。ほかのエリアからの干渉を受けないよう、ガラスで仕切られているため、論文作成や試験勉強に没頭できる。

エリアごとに **静** **動** **蓄** の機能が鮮明に

附属図書館 中央館大解剖

その日の学修スタイルや気分に合わせて座る場所をチョイス! 多様なニーズに応える新しい図書館のカタチ。



静 個別学修 エリア



閲覧席エリア
学生の要望に応え、個席数を約2倍に増やした。集中できる学修空間を大幅に増設することで、学修に取り組みやすい環境となった。

静かな環境の下、落ち着いて学修できるエリア。個別の学修空間(個席)を大幅に増設するなど、より集中できる場となった。

静、動、蓄を備えた 新しい図書館

熊本大学附属図書館長 大熊 薫



大学附属図書館が教育に果たす役割はますます大きくなっており、単に情報を提供するだけでなく、学生たちの知の創造を促し、学修支援に深く関わるといった役割が求められるようになっていきます。リニューアルオープンした本学附属図書館中央館は、1階を「動」の空間、2階を「静」の空間、そして、地階は「蓄(アーカイブ)の空間」と、利用スタイルごとにすみ分けることで、学生の自律的な学修を支援する機能を強化しました。レファレンスデスクに専門性の高い図書館職員を配置したほか、新しい学修支援機能の充実を図り、アクティブな学びの場として活用できるようになったのです。

今回特に大きく変わったのが、「動」の空間として位置づけた1階部分です。ここには「ラーニングコモンズ」という新しい図書館機能を付与しました。「ラーニングコモンズ」とは学生が共に学ぶ共有のスペース、つまり学生同士が議論し知識を求め、共に考える場のことです。1階は主に「アクティブエリア」、「ライティングサポートエリア」、



1



5

動 ラーニング コモンズ



グループ学修室

グループディスカッション、ディベート、グループワークなど、学生のグループ学修や教員と学生による研究会などに活用できる。インターネット環境やプロジェクター等の機器も充実。

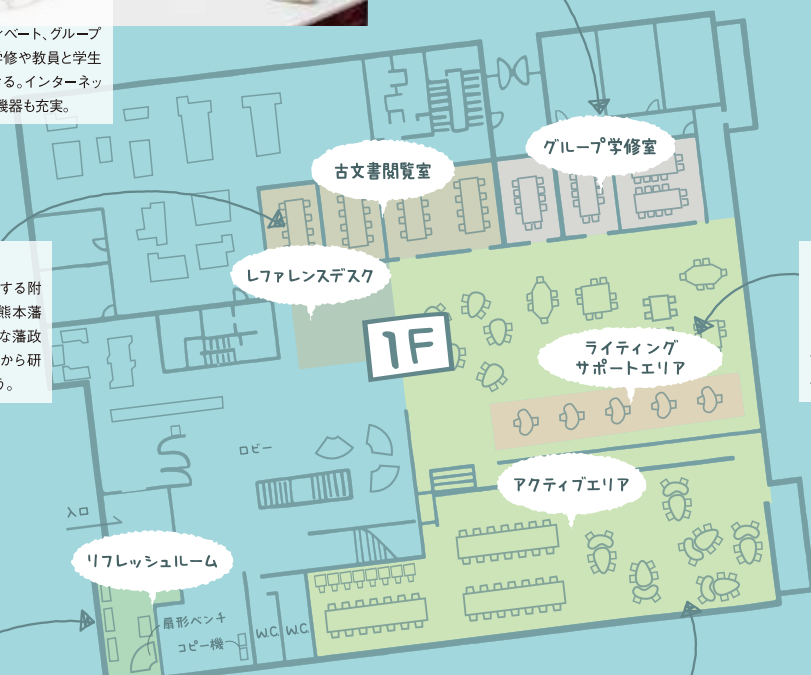
古文書閲覧室

さまざまな歴史遺産を所蔵する附属図書館。「阿蘇家文書」や熊本藩主・細川家に伝えられる膨大な藩政資料を閲覧する目的で、全国から研究者が来館し歴史と向き合う。



リフレッシュルーム

学生の声を受けて生まれた飲食可能なスペース。自動販売機も設置されており、図書館利用者の息抜きの場となっている。



ライティングサポートエリア

ライティングおよび関連スキルのサポートなどを行うエリア。「熊本大学ライティング指導室」によるレポート作成支援などが定期的に行われており、学部を越えて学生たちが集まる。

リニューアル後の図書館を特徴づける「動」の機能を集積したエリア。学生をはじめとした利用者が議論し、考えを深め合う、共に学ぶ共有のスペース。



アクティブエリア

ブレインストーミング、討論、プレゼンテーション、ゼミ活動といった「動」の学びが可能なエリア。利用者間に十分な間隔を設けてあるため、自由度の高い使い方が可能で、活発な議論が交わされることも。



(上)改修後
(右)改修前



「グループ学修室」によって構成されています。「アクティブエリア」では、学生のグループ学修やプレゼンテーションの練習さらには教員によるセミナー開催などを可能としました。従来の声をひそめて静かに過ごす場であった図書館とは全く異なり、活発に議論し合える場となったのです。

「ライティングサポートエリア」では、教員や大学院生が講師を務める「熊本大学ライティング指導室」によるレポート作成支援などが定期的に行われており、「受講した学生のレポートが分かりやすくなった」など、学内外から評価する声が聞かれるようになりました。また、プロジェクター完備の「グループ学修室」はガラス張りとなっており、ディスカッションなどの様子が外からも伺えることから、見られることによる学生たちのモチベーションアップにもつながっているようです。

2階の「サイレントゾーン」は学修に集中

書庫

膨大な資料を収蔵する書庫。「熊本大学OPAC」(蔵書検索システム)を利用することで、蔵書や新着図書などを検索できるのはもちろんのこと、「ILLサービス」(学内者のみ)では、本館に所蔵していない資料を複写して取り寄せることも可能。

蓄 アーカイブ



多目的ラウンジ
さまざまな用途に使用できる多目的ラウンジ。英語読本の配架に隣接してAVスペースを設けることで、語学学習に適したスペースを確保した。

熊本大学の知の拠点ともいべきエリア。従来型の書庫はもちろん、リニューアルにより多目的に利用できるラウンジを併設した。



熊本大学附属図書館

中央館(黒髪北キャンパス)

リニューアルし、学生・教員はもとより地域の人にとっても使いやすい明るい図書館に。一定の要件を満たせば学外の人にも図書館利用証が発行される。資料(貴重資料は除く)は館内で自由に利用できる。

- 開館時間/8:40~22:00(休業期平日は17:00まで、土・日曜、祝休日は12:00~18:00)
- 休館日/休業期間中の土・日曜、祝休日、年末年始、試験期間を覗く毎月第4水曜、夏季一斉休業日、その他の臨時休館日

医学系分館(本荘・九品寺キャンパス)

医学関連の蔵書を収容。教職員および生命科学系の院生は24時間利用可(要申込)。

- 開館時間/9:00~21:00(休業期平日は17:00まで、土・日曜、祝休日は12:00~18:00)
- 休館日/休業期間中の土・日曜、祝日、年末年始、毎月第3水曜(17:00~21:00開館)、夏季一斉休業日ほか



薬学部分館(大江キャンパス)

薬学関連の蔵書を収容。教職員、生命科学系の院生・研究室配属の薬学部生は24時間利用可(要申込)。

- 開館時間/9:00~17:00
- 休館日/土・日曜、祝休日、年末年始、夏季一斉休業日ほか



10月1日に行われたリニューアルオープン記念式典では「くまモン」も参加してテープカット。左から「くまモン」、大熊館長、文部科学省研究振興局参事官(情報担当)付学術基盤整備室長、谷口学長、学生代表の2人。

できるような、個席を160席ほど設置しました。これはリニューアルに際して行ったアンケートに多く寄せられた要望に答えたもので、学修に取り組みやすくなったと好評です。また、1階に飲食できるコーナーが設置されたのも、従来の図書館のイメージからは大きく変わったところでしょう。

インターネットで容易に情報を入手できる時代ですが、図書館には、膨大なアーカイブ、共に考えを深め合える仲間、そして、適切に情報をつなぐ専門の職員がいます。図書館に足を運ばないと得られない情報もあるのです。また、多様な人が集まり、さまざまな意見を交わすことにより新たな視点を獲得することができます。附属図書館に集う学生の中から、今までにない視点を持った、世界に通用する人財が育っていくことを願っています。

世界に向かって熊大を発信！ 確かな効果とこれからの展望

2003年から毎年、国内外で開催されてきた「熊本大学フォーラム」は今年、記念すべき第10回目を迎えました。これまでの歩みを振り返り、「熊本大学フォーラム」の意義と成果について考えます。



熊本大学国際化推進センター副センター長
熊本大学大学院自然科学研究科教授 鳥居修一

熊本大学では本学の教育研究活動を広く社会に発信するとともに、今後の活動がさらに充実・発展するための意見交換の場として、2003年から「熊本大学フォーラム」を開催しています。当初は国内での開催でしたが、国際社会の中で本学の存在感を高めるとともに国際交流ネットワークの拡充と人材交流の促進を目指し、第3回からは主に海外にその舞台を移しました。中でもベトナムや韓国、インドネシアなど東アジアを重要な海外拠点と位置付けており、記念すべき第10回目となった今年には、インドネシア第2の都市・スラバヤ市にて開催しました。

フォーラムを通して、海外オフィスの設置や海外の大学・教育機関との交流協定の締結、海外研究者との共同研究活動な



「第10回熊本大学フォーラム」では、スラバヤ工科大学連合との大学間学術・学生交流協定を更新。両者の絆がより一層深まった。



第9回(2012年)に上海(中国)で開催したフォーラム。レセプションも大勢の参加者でにぎわった。

どが促進され、本学の留学生数が大幅に増えるとともに、本学からの留学も促進されるなど、一定の効果が表れています。

「熊本大学フォーラム」には教育研究活動の情報発信、海外との学生交流・学術交流の促進、さらには国際キャンパスへの進化を目指して、本学のグローバル化促進のけん引役としてより活発な活動を継続することが期待されています。時代に即した目標や形態を模索しながら、より意義のあるフォーラムをこれからも開催していきます。

「熊本大学フォーラム」過去の開催一覧

開催年	開催地	参加者数*
第1回	2003 日本(東京)	220人
第2回	2004 日本(大阪)	256人
第3回	2005 中国(上海)	455人(延べ)
第4回	2006 韓国(大田)	450人(延べ)
第5回	2007 日本(熊本)	250人(延べ)
第6回	2008 インドネシア(スラバヤ)	545人(延べ)
第7回	2009 日本(熊本)	227人
第8回	2010 ベトナム(ハノイ)	520人(延べ)
第9回	2012 中国(上海)	250人
第10回	2013 インドネシア(スラバヤ)	1,000人(延べ)

*2日間にわたって開催された回は延べ人数

International exchange Report

国際交流レポート
平成25年9月~11月

9 / 3
平成25年度「教育の国際化推進のためのFD研修を実施(5日まで)」カナタアルバータ大学から講師を招聘して研修を行い、教員25人が参加しました。

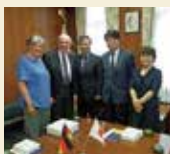
10 / 4
谷口学長がミャンマー「工学教育拡充プロジェクト」開始式典に出席
ヤンゴン工科大学とマンダレー工科大学での実践的な学部教育の整備や研究能力の強化を行うことを目的とし、JICAが取り



7
CARD・CNB国際マウス生殖工学ワークショップを開催(11日まで)
ワークショップをマドリッドで開催し、17カ国より集まった24人の研究者に対して、マウス生殖工学に関する講演および技術指導を行いました。



11
ノーベル化学賞受賞者ヨハン・タイゼンホーファー博士が来学(13日まで)
博士は薬学教育部の大学院生に講義を行い、13日には本学にて開催の平成25年度日本結晶学会年会(実行委員長、自然科学研究科 吉朝明教授)において特別講演を行いました。



15
谷口学長が韓国・KAIST主催の「国際学長フォーラム2013」に出席

「第10回熊本大学フォーラム」(スラバヤ)Report

研究交流や学生交流の深まりに手応え 「第10回熊本大学フォーラム」を開催!

去る2013年11月25日・26日にインドネシア・スラバヤ市で開催された「第10回熊本大学フォーラム」。
2日間で延べ1,000人に及ぶ研究者や学生が参加したフォーラムの様子を密着取材しました。

熊本大学マーケティング推進部広報戦略ユニット長
西川洋子



2日間にわたり開催されたフォーラムは、多彩なイベントを通して双方の教育研究実績や文化への理解が深まり、交流の進展を期待できるものでした。

1日目、スラバヤ工科大学における特別講義では、6会場合わせて600人を超える聴講者が参加し、会場は熱気に溢れました。また、アイラングダ大学人文学部では日本研究学科を訪問。同学科の約50人の学生が、本学の留学生生活などの紹介に熱心に耳を傾けていました。本学から参加した学生に積極的に質問する光景も見られ、近々締結予定の学生交流協定により、さらなる留学生



6会場に分かれて行われたスラバヤ工科大学での本学教授による特別講義。



2日目の会場ホテル内に設けられた「熊大紹介コーナー」は大盛況で、活発な交流が繰り広げられた。

増が期待されます。同市内のホテルに会場を移した2日目も研究者や学生ら約400人が参加し、研究発表会場内など至る所に人の輪ができ、意見交換が行われていました。

最後に行われた晩餐会では、アイラングダ大学の学生たちが「よさこいダンス」を披露。大いに盛り上がった中、この日のために結成された「熊大プロフェッサーシンガーズ」が登場し、その美声で会場全体を一つにまとめ、フォーラムは和やかに終了しました。

今回、同地での開催は2008年に続き2回目ということもあり、今後ますます交流が盛んになることを予見できる、10



会場から拍手喝采を浴びた「熊大プロフェッサーシンガーズ」。

回目の記念すべきフォーラムにふさわしい充実した内容となりました。

このフォーラムについては、別途本誌20ページ「KUMADAI TOPICS」でもご紹介しています

25 第10回熊本大学フォーラム(インドネシア・スラバヤ)を開催(26日まで)
上記「国際交流およびKUMADAI TOPICS」(本誌20ページ)を参照。

12 平成25年度海外留学成果発表会を開催
留学を希望する学生ら約40人が集まり、留学経験者の体験や成果等の報告を聞きました。

7 三大学ワークショップを含む学生短期派遣プログラムH25年度JASSO採択(14日まで)
自然科学研究科の学生12人が韓国亞洲大学にて本研究科主催の8日間の学生短期派遣プログラムに参加しました。



5 「留学生と保健学系学生との交流会」(第3回)を九品寺キャンパスで開催
保健学系国際化推進委員会の主催で、本学留学生との交流と英会話力向上を目的に学生教職員ら58人が参加しました。



11/1 MASHITA同ワークショップをカナダ・McGILL大学で開催
教員4人がMRCにおけるマグネシウム研究の状況を発表し、情報交換をしました。



21 先進マグネシウム国際研究センター(MRC)の代表団が豪州クイーンズランド大学を訪問
同大学の材料工学部門とマグネシウム合金の研究に関する覚書を締結





人と関わることが好き！ 患者さんとの関わりを大事に



濱上 渚

Nagisa HAMAGAMI

熊本大学医学部附属病院
勤務

医学部保健学科・平成24年度卒

平成2年生まれ、熊本県菊池市出身。
熊本県立熊本高校卒業後、熊本へ
進学。看護師・保健師の免許取得後、
熊本大学医学部附属病院勤務。

熊大のココがイイ！

一緒に楽しみ、
努力できる友人ができる！
先生方が親身に
指導してください！

1日看護体験をきっかけに
看護師の道を志す

幼いころから人と関わることが好きで、人の役に立つ仕事がしたいと考えていました。高校のときに参加した1日看護体験で見た看護師さんと患者さんのやりとりに憧れ、看護師を志すようになりました。今も患者さんとの関わりがやりがいを感じているので、仕事で大変なことがあっても楽しく頑張ることができています。

高校生との関わりの中で
自分自身も大きく成長

大学ではバドミントンサークルに所属し仲間と汗を流したりキャンパスに参加したりと楽しい思い出がたくさんあります。また、「ピアカウンセリングサークル」では県内の高校生と関わりながらコミュニケーションや生・性について学ぶことで自分自身も大きく成長できました。大学生生活で得た仲間と経験が今の自分の支えとなり、とても役立っています。

重い責任を感じつつ

患者さんの笑顔を励みに頑張る

入職してからは、病棟の業務など新しいことを覚えるのに精一杯の毎日。「受け持ち」の患者さんがいるという責任の重さに、学生時代との違いを感じます。受け持ちの患者さんから「ありがとう」と笑顔をいただくときはとてもうれしく、これからも患者さんとの関わりを大切にしながら、より良いケアができるように励んでいきたいと思っています。

卒業生 ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する先輩たちのこれまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通して精励するその姿をご紹介します。



社会の発展に寄与するため 新規材料の製造に尽力



西元 貴裕

Takahiro NISHIMOTO

日本冶金工業株式会社
大江山製造所(京都)
勤務

工学部知能生産システム工学科・平成19年度卒／大学院自然科学研究科マテリアル工学専攻前期課程・平成21年度修了

昭和60年生まれ、宮崎県えびの市出身。宮崎県立小林高校卒業後、熊本大学を経て同大学院へ。ステンレス関係の独立系企業である日本冶金工業に入社し、現在ニッケル製錬部門に配属。

熊大のココがイイ！

尊敬できる先生や
OBが多く、
郷土愛が深い。

材料の持つ魅力に引かれ
新規材料開発に携わる職種を目指す

高校時代、科学雑誌・テレビで宇宙エレベーターの存在を知り、材料が持つ魅力を感じるようになりました。漠然とはありましたが、社会の発展に寄与する材料、新しい分野を開拓するような新規材料を開発できる技術者・研究者になりたいと考えていました。

実験とデータ解析に没頭
仲間たちと議論を深めた学生生活

学部3年までは本分である勉強に励みながら、アルバイトやサークル活動、旅行などを満喫。学部4年からは研究室中心の生活で、実験とデータ解析に没頭しました。結果が伴わず、苦労することもありましたが、先生方から助言をいただき、先輩や同期と議論を深める事で大変有意義な時間を過ごしました。また、さまざまな学会に参加する機会をいただき、知見を広めることができました。

新しい分野の開拓という夢を実現！
ステップアップした仕事を目指す

現在はステンレスの原料となるフェロニッケルの製錬に携わっています。操業の安定化、効率化を図るとともに安全管理、コスト管理も行っています。幸運なことに新規設備導入のタイミングでの配属となり、主幹要員の一人としてスムーズに設備を稼働することができました。人とのつながりを大切に、改善を重ねていきたいと思っています。



情報媒体の電子化に対応し 司書として利用者をサポート



疋田 恵介

Keisuke HIKIDA

佐賀大学学術研究協力部
情報図書館課 勤務

文学部総合人間学学科・平成20年度卒

昭和61年生まれ、長崎県佐世保市出身。長崎県立佐世保高校卒業。4年の夏休みに司書資格を取得。卒業後、佐賀大学附属図書館本館に3年勤め、現在は医学分館に勤務。

熊大のココがイイ！

緑豊かで
歴史あるキャンパス！
読書に最適！

好きなものが詰まった
居心地の良い空間が、今では職場に

高校時代、よく地元の図書館で勉強していました。静かで居心地がよく、もともと本が好きだったので勉強の合間にいろいろな文化史の本や小説を読んでいました。当時は将来のことはぼんやりとしか考えていませんでしたが、図書館で過ごした日々がその後の進路と現在の職業につながったのだと思います。

探究すればするほど広がる

文化の奥深さに驚いた大学時代

大学3年の調査実習は、仲間と何日もかけて報告書をまとめあげ、忘れがたい思い出になりました。4年では文化人類学ゼミに入り、好きだった黒人音楽の研究にはまりました。何気なく聞いていた音楽の文化的背景に迫ることは面白く、またここまで深く追いかけても次々と派生し広がっていく文化の奥深さに驚かされました。

大学図書館の司書として
学生の学修と成長を見守る

現在は、大学附属図書館の司書として学生や先生方の学修・研究活動を情報面でサポートしています。情報媒体の電子化が進む中、日々変化する環境に翻弄(ほんろう)されていますが、利用者の求めに適切に答えて感謝されたときなどはうれしく、やりがいを感じます。また、学生の成長を見守れるのも大学附属図書館勤務ならではの楽しみです。

教

毎日発見がある教職は 全力を注げるやりがいのある仕事



平國 貴子

Takako HIRAKUNI

藤沢市立湘南台中学校
(神奈川) 勤務

教育学部地域共生社会課程
平成21年度卒

昭和63年生まれ、長崎県佐世保市出身。長崎県立佐世保北高校卒業。大学時代はジャズ研に所属し、演奏活動を行う。現在は吹奏楽部の顧問として子どもたちと共に音楽の楽しさを発見する日々を送っている。

熊大のココがイイ!

好きなことを
好きなだけ学べる環境と、
力になってくださる
個性豊かな先生方。

自分のやりたいことを
見つけるために大学へ

高校時代前半は、恋に友情に部活動にと忙しく、恐ろしく成績が振るいませんでしたが、部活動を引退後、自分の成績の悪さを自覚し、心を入れ替えて勉強を始めました。明確な目標がなかった分、「大学に入って、自分のやりたいことを見つけない」という気持ちで勉強に取り組んでいました。

幅広い学びの中で

自分の興味関心の方向を発見

地域共生社会課程では幅広い分野について学ぶので、自然と自分の興味関心の方向に気がつくことができました。また、授業では、石垣島の豊年祭に参加したり、北海道に船で行ったり、児童相談所に突撃取材をして現場の声を聞いたり...ととにかくチャレンジと発見の繰り返しで、本当に充実した日々でした。

毎日新しい発見の連続!

日々成長する生徒から学ぶことも

「自分の全く知らん土地で一からやってみたら!」「新しい土地で新しい発見ばかりか!」こんな気持ちで神奈川の教員採用試験を受けました。この職業のいいところは毎日新しい発見があることです。自分自身が勉強をして気が付くこともありますし、日々成長する生徒の姿を見て学ぶことも多くあります。全力で取り組めるこの職業に誇りを持っています。

法

自分を信頼してくださるお客さまの 感謝の言葉が大きなやりがいに



熊井 美由紀

Miyuki KUMAI

株式会社西日本シティ銀行
(福岡) 勤務

法学部法学科・平成23年度卒

昭和63年生まれ、福岡県福岡市出身。福岡県立明善高校卒業後、熊本大学法学部へ。現在は仕事柄、自分でも投資を楽しんでいる。

熊大のココがイイ!

市街地にも
自然にも近い立地で、
充実した大学生活が
送れるところ。

小学生時代の体験が
法を学ぶきっかけに

高校時代は特にはっきりとした夢はなく、ただ漠然と将来は地元の福岡で働いたら、と思っていました。しかし、小学生の時に社会見学で裁判所を訪れ、模擬裁判を体験したこと、ちょうどそのころ放送されていた裁判所を舞台としたドラマを見たことなどがきっかけで、法律や裁判を面白いと感じ、法を学びたいと思うようになりました。

全てに一生懸命だった大学生活
たくさんの方の良き友人に恵まれる

初めは慣れない一人暮らしに戸惑いながらも次第に楽しめるようになり、たくさんの方の良き友人に囲まれて楽しく過ごした学生生活でした。授業にサークル活動、アルバイト、遊びと全てに一生懸命でした。4年間一緒に過ごした友人と行った京都・バリ島への卒業旅行は、忘れられない思い出です。

知識や資格も必要だけれど
お客さまとの信頼関係を何より大切に

現在、営業職として資産運用を担当しています。リスク性商品と呼ばれるものを販売するため、さまざまな知識や資格、そして何よりお客さまとの信頼関係が重要です。結果を出すことも求められ、良い結果が出た時は達成感がありますが、それ以上に、自分を訪ねてくださるお客さまが増えていくことやいただく感謝の言葉に、大きなやりがいを感じています。

理

大学で培った専門性を生かし 他分野の専門家と共同研究中



大村 訓史

Satoshi OHMURA

日本学術振興会特別研究員
(PD)・京都大学 勤務

理学部物理学科・平成18年度卒／
大学院自然科学研究科理学専攻博士前期課程・平成20年度修了／
大学院自然科学研究科理学専攻博士後期課程・平成23年度修了

昭和58年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立第二高校卒業。平成21年から1年間、南カリフォルニア大学で研究助手。その後日本学術振興会特別研究員(DC2)を経て現職。専門は構造不規則系の計算物理学。

熊大のココがイイ!

教員、職員、友人、
すべて含めて
大学にいる人が魅力的!!

高校総体の悔しさを晴らそうと
教員を目指した高校時代

高校生の時は、ほとんど休みなく、ひたすら部活動(水球)に明け暮れていました。最後の高校総体で悔しい思いをしたので、指導者として高校に戻りたいと思いました。物理の教師を目指していましたが、そのような事情から当時の友人たちは、体育の教師になるものだと思っていたようです。

研究室に“住み込み”状態

それほど面白かった研究生活

学部の3年までは講義、バイト、たまにサークル。4年になり研究室に配属されると、もうほとんど研究室に住んでいました。徹夜も多く、日中仮眠をとって、ずっと研究室にこもりっきりという生活なので、久しぶりに昼間外に出ると、「うわっ!まぶしい!」と思わず言ってしまうほどでした。しかし、それだけ研究が面白かったのだと思います。

多分野の専門家と手を取り合い
研究の成功に向け、ともに尽力

現在、京都大学や東北大学の実験グループと協力して、強光度レーザーを物質に照射した際に起こる物質崩壊について研究を行っています。私はシミュレーション専門なので、実験家の人たちとの議論は専門性の違いから難航することも多いのですが、さまざまな専門家たちと一つのテーマに向かって研究を行うことに非常にやりがいを感じています。

薬

信頼される薬剤師を目指し 日々スキルアップを心掛ける



吉田 志保

Shiho YOSHIDA

総合メディカル株式会社
(福岡) 勤務

薬学部薬学科・平成23年度卒

昭和62年生まれ、福岡県福岡市出身。福岡県立筑紫丘高校卒業後、熊本大学薬学部へ入学。卒業後は現在の会社に入社し調剤薬師として勤務。趣味はスポーツ観戦。

熊大のココがイイ!

横だけでなく
縦のつながりも強い!
すてきな仲間と出会える場。

人を助ける仕事がしたい
興味があった薬に関わる道へ

高校3年間は部活動に専念しすぎて、自分の将来についてあまり真剣に考えていませんでした。ただ漠然と人の役に立ちたい、人を助ける仕事がしたいと考え医療関係の仕事に就きたいと思っていました。幼い頃に病院にお世話になることが多く当時から自分に処方された薬に関心があり、もっと詳しく知りたいと思い薬学部を目指すことにしました。

多くの人に支えられ

つらさを乗り越え充実した日々

熊大での6年間は多くの人に支えられた日々でした。中学から続けたバレーボール部では初めてのキャプテン業に悪戦苦闘し、研究室に配属されてからはうまくいかないことも多く、つらいこともありましたが、先生方をはじめ、先輩・後輩、同級生がネガティブな私を励まし、助けてくれたからこそ乗り越えることができ、楽しく過ごせたと思っています。

医療に貢献できていることを実感
気軽に相談できる薬剤師を目指す

現在は調剤薬局で薬剤師業務に励んでいます。応需先の病院と患者情報を共有することで医師と共に医療に貢献できていることを実感しています。まだ入社2年目で、自分の無力さを感じることも多々ありますが、患者さんから信頼され、気軽に相談できる薬剤師になることが目標なので、日々スキルアップしていかなければならないと思っています。

REPORT

「創造する森 挑戦する炎」 熊本大学コミュニケーションワードをお披露目しました

熊本大学では平成25年3月、本学が社会に提供する根源的特質を象徴的に伝える言葉として、コミュニケーションワード「創造する森 挑戦する炎」を策定しました。

11月1日(金)にはお披露目イベントが開催され、かつて本学に在籍され、「SLAM DUNK」「バガボンド」などで知られる漫画家・井上雄彦氏に揮毫いただいた書が披露されました。井上氏からは「熊本の地、熊本の人々、そして熊本大学にふさわしい言葉だと思えます。みなさんが熊本大学で過ごされる日々がこれから一層充実した時間になりますように」などのメッセージが寄せられ、あいさつに立った谷口学長は、「書から強い思いが伝わってきます。本学が今まで積み重ねてきた努力の上に立って、輝く未来へと向かう言葉です」と話しました。

続いて、「熊大のイメージは膨らむか?」と題して、コミュニケーション



力強い眼差しの井上氏のポスターを掲げながら行われたパネルディスカッション

ワード策定に関わったワーキングメンバーなどを招いてのパネルディスカッションが行われ、議論を重ねてきた策定までの2年間を振り返るとともに、今後の熊本大学の在り方、そのためにコミュニケーションワードをどう活用していくかなどについて、活発な意見交換が行われました。

現在コミュニケーションワードはロゴ化され、本学のPRなどに積極的に活用されています。



谷口学長と2人の学生が除幕し、披露したコミュニケーションワード

井上雄彦氏が揮毫したコミュニケーションワード「創造する森 挑戦する炎」

創造する森
挑戦する炎

REPORT

第8回ホームカミングデーを開催しました

平成25年11月3日(日・祝)、黒髪キャンパスおよび薬学部キャンパスにおいて「第8回ホームカミングデー」を開催しました。今回は、「絵と物語ー永青文庫資料を中心にー」「地下の文化財散歩」「薬学部キャンパス訪問」など七つのキャンパスツアーを実施。黒髪キャンパス以外で初めて実施した薬学部でのキャンパスツアーは、薬学部学生お手製の薬膳料理、模擬薬局、野草園ツアーなど盛りだくさんの企画で、大変好評でした。

歓迎パーティーでは、本学に顕著な功績を残された卒業生表彰者並びに名誉フェロー授与者のご紹介などの後、



歓迎パーティーで元気な演技を披露する応援団チアリーダー部「BLAZES」

学生サークルなどによるジャグリング、吹奏楽、合唱、チアリーディングなどが披露され、最後に旧制第五高等学校寮歌「武夫原頭に草萌えて」を参加者全員で大合唱し、盛会のうちに幕を閉じました。



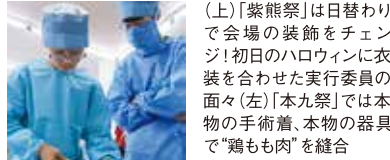
キャンパスツアーの様子

REPORT 「紫熊祭」「本九祭」「蕃滋祭」開催!

平成25年11月2日(土)~4日(月・休)に熊本大学の三つのキャンパスで学園祭が開催されました。黒髪キャンパスで行われた「紫熊祭」の今年のテーマは「サプライズ!」。来場者全員に驚くほど新鮮な喜びを感じてもらい、街全体を活気のあるものにしたとの思いを込め、3日間にわたり多彩なイベントが催されました。

本荘・九品寺キャンパスの「本九祭」では、本物の器具を使った「手術体験」などに来場者は興味津々で取り組んでいました。

大江キャンパスの「蕃滋祭」には学生手作りの薬膳料理が登場。健康に良い上に味も申し分なく、来場者の好評を博していました。



(右)胃腸回復にピッタリの「蕃滋祭」の薬膳料理



(上)「紫熊祭」は日替わりで会場の装飾をチェンジ!初日のハロウィンに衣装を合わせた実行委員の面々(左)「本九祭」では本物の手術着、本物の器具で「鶏もも肉」を縫合

REPORT 「夢科学探検2013」を開催

小学生から一般の方までを対象に、実験を通して科学の楽しさを体験してもらう「夢科学探検2013」を平成25年11月2日(土)に開催しました。「理学部探検」「工学部探検」では「わくわく実験100テーマ」と題して、各学部で工夫を凝らした実験を用意。黒髪南キャンパスは多くの人々でにぎわいました。

また、同時開催の「もの・クリ Challenge」の今年のテーマは「あかり AGAIN」。何気ない日常に楽しみや幸せを感じさせる「あかり」の、アイデアコンテストと作品製作コンテストを実施。審査および表彰が行われました。



バラエティ豊かな実験の数々に子どもたちの楽しそうな笑顔があふれた



REPORT 「Etsy顧問アダム・フリード氏講演会」を開催しました

平成25年11月7日(木)、自然科学研究科と在福岡米国領事館主催の特別セミナーが工学部百周年記念館を会場に開催され、元ジャーナリストで、Googleなどインターネット企業での豊富な経験を持つ、Etsy顧問のアダム・フリード氏が「世界を相手に価値を創る〜グローバル・マイクロ起業家の誕生〜」と題して講演を行いました。

今後のビジネスにおけるデジタルテクノロジーを活用した戦略的なアプローチのヒントや進路選択の可能性を学生に考えさせる内容で、学内外からの200名を超える参加者で会場はほぼ満席となりました。



講演するアダム・フリード氏

REPORT 「第10回熊本大学フォーラム」インドネシア(スラバヤ)開催
インドネシアの大学に熊大の研究力をアピール



アイルランガ大学と大学間交流協定を締結し握手を交わす谷口学長(左)とアイルランガ大学のファシック学長

平成25年11月25日(月)・26日(火)の2日間、インドネシア第2の都市、スラバヤ市において「第10回熊本大学フォーラム」を開催しました。

1日目には、スラバヤ工科大学

(ITS)での本学教授陣による出張講義およびアイルランガ大学(UNAIR)での学部・研究科等紹介、教職員・学生の研究・文化交流を行いました。2日目には、スラバヤ市内のホテルにおいて、ITS、UNAIR2大学と本学による研究発表、パネル展示、留学相談、本学留学生のOB・OG会など多彩なイベントを行い、2日間合わせて約1,000人の研究者や学生が参加しました。また、この機に、UNAIRとの大学間交流協定およびITSとの修士課程ダブルディグリープログラム協定の締結ならびにスラバヤ工科大学連合との交流協定の更新を行いました。

フォーラムに参加したインドネシアの学生は、「熊大の研究力や熊本での生活について深く知ることができた。ぜひ熊大で勉強したい」と本学への留学に強い関心を示していました。今後、国際的な交流の幅が広がることが期待されます。



「第10回熊本大学フォーラム」ポスター

REPORT 工学部研究資料館で「秋の夕暮れコンサート」を開催

平成25年11月15日(金)、本学の秋の風物詩の一つ「秋の夕暮れコンサート」を工学部研究資料館で開催しました。開演前には、国指定重要文化財である同館の紹介に続き、動態保存されている工作機械が試運転され、参加者も興味津々。今回はこれまでと趣を変えた初めてのジャズコンサートで、ジャズピアニスト・園田智子さん、ギター奏者・平村英寿さんの演奏で「Autumn Leaves」「All The Things You Are」などが赤レンガの館内に響きわたると、会場から「雰囲気に合うね」「風情がありますね」という声も聞こえました。秋の宵、伝統ある建造物で生演奏を聞く希少なひとときを堪能しました。



工学部研究資料館

REPORT 第8回学生国際会議 (the 8th ICAST 2013 Kumamoto)を開催しました

大学院自然科学研究科主催「第8回学生国際会議」(ICAST: International Student Conference on Advanced Science and Technology)を本学において開催しました。

ICASTは学生が運営する国際会議で、英語による研究発表や討論により学生の実践力および英語運用能力を強化し、また海外の学生との交流を通じて国際感覚の醸成に寄与するものとして、平成20年から毎年開催してきました。今年は116名の本学からの参加者に加え、海外(中国、韓国、インドネシア)から約60名の学生を迎え、平成25年12月12日(木)・13日(金)の日程で、口頭発表117

件、ポスター発表46件が英語で行われました。また、ICAST学生運営委員会を組織し、オープニングセッションを含めた各セッションの司会進行、交流パーティーの企画および進行なども学生により行われ、有意義な国際会議となりました。14日(土)の阿蘇へのフィールドトリップには、約90名が参加し交流を深めました。



REPORT 内閣総理大臣・池田勇人の写真が五高記念館に

旧制第五高等学校の卒業生で、昭和35年から39年にかけて内閣総理大臣を務めた池田勇人の写真13枚が財務省九州財務局より五高記念館の展示などのため貸与されることになり、平成25年10月15日(火)、財務省九州財務局長野島透氏から本学五高記念館の伊藤重剛館長に手渡されました。



五高記念館復原教室にて野島透氏(左)と五高記念館長・伊藤重剛教授



昭和36年、ケネディ大統領とホワイトハウスの玄関にて(財務省九州財務局提供)

INFO 熊本大学テレビ放送公開講座「熊大チャンネル 2014『社会がわたしの研究室』」



放送開始から26年目に突入した熊大テレビ放送公開講座では、昨年に引き続き、今年もKAB熊本朝日放送製作で、6人の研究者を紹介します。今年は15分番組の6回を放送します。ぜひご覧ください。

<放送スケジュール>

- 第1回 平成26年1月18日(土)
「音響工学で環境デザイン!『音屋』の挑戦」
・川井敬二准教授
- 第2回 平成26年1月25日(土)
「自己表現の第一歩!スポーツの可能性」
・坂下玲子教授
- 第3回 平成26年2月1日(土)
「大人の学び…日本初!教授システム学」
・根本淳子助教
- 第4回 平成26年2月8日(土)
「植物に学ぶ!暮らしに活かせる薬のはなし」
・矢原正治准教授
- 第5回 平成26年2月15日(土)
「熊大の知を結集! 減災のすすめ」

- ・山田文彦教授
- 第6回 平成26年2月22日(土)
「熊本発! エイズ最先端研究者ができるまで」
・原田信志教授
- ※タイトルおよび放送の順序は変更になる場合があります。

放送時間 / 12:30~12:45
放送局 / KAB熊本朝日放送

【問い合わせ】
政策創造研究教育センター
Tel. 096-342-2044
URL: <http://www.kab.co.jp/pc/kumadai/>
※KABサイト内特設ページ

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.23(平成25年9月1日～平成25年11月30日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様からご寄附をいただき、平成25年11月30日現在、その寄附総額は約5億5021万円となっております。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成25年9月1日から平成25年11月30日までの間に入金を確認させていただきました個人148名、1法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者の皆様

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※ ()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【100万円】	芳賀 義雄(205)	古家 義朗(110)			
【30万円】	右田 健兒				
【20万円】	谷口 功(220)				
【10万円】	菊池 健(110)	菅野 幸裕(30)			
【7万円】	一木 政彦(22)	富永 雄吉(17)			
【5万円】	岩本 俊輔(10)	島田 廉夫(110)	下津 昌司(6)	長谷場 琢哉(15)	松田 猛夫(10)
【5万円未満】	芥川 卓也	有吉 寛	小貫 治朗(5)	北野 寿	田淵 一誠
	手柴 秀孝	星子 晋一郎	峰 泰昌	吉田 烈	笠 裕之

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者の皆様

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※ []内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

明石 一彌	縣 好久	足立 大成[2]	今井 博昭[6]	岩永 研一[3]	魚住 秀男
大林 昭	大原 洋一	岡崎 廣行	小倉 繁[2]	加来 政博	加藤 賢二[3]
亀崎 佐織	倉元 洌	児玉 昭男	志方 照敏[2]	柴田 貴徳[2]	白神 勲
高屋 勝治	坪井 健兒[2]	永井 勲[4]	中川原 順治	長崎 孝博[4]	中村 宏[2]
西見 裕司[2]	野口 雅章[4]	野村 智雄	濱邊 鶴志[2]	福田 龍男	福原 孝明[2]
藤野 宏典	星加 和利	本田 一雄[4]	正木 秀信[4]	松下 諄一郎	溝口 寿子
蓑田 豊	向田 敬二[4]	村崎 和孝	諸藤 元信	山口 悦郎[2]	横山 亮一
吉川 克広[3]	吉田 実[2]	吉原 節夫			
堤化学株式会社[7]					

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人80名

REPORT

「第3回熊本大学関西連合同窓会」に176名が参加

平成25年11月30日(土)大阪市都島区の太閤園において、谷口学長、各同窓会会長他を招き、合計176名の参加を得て、第3回熊本大学関西連合同窓会が開催されました。

会では小野田敏行幹事(S48工)の司会進行の下、最初に総会が行われ、西山多加志会長(S44工)、岡村宏同窓会連合会会長(S29工)による挨拶の後、役員等紹介、卒業生表彰受賞者紹介が行われました。

続く講演会では、谷口学長から「国立大学の新たな飛躍に向けて一国立大学を取り巻く状況とその将来一」と題し、また山西嘉晴(財)東京都医学総

合研究所客員研究員(元エーザイ(株)・S43薬)から「アルツハイマー型認知症治療薬の研究開発一現在から未来に向かって一」と題した講演が行われました。

講演会終了後の交流会では、中野栄二東京連合同窓会会長(S42薬)の挨拶に続き、佐々木興三副会長(S40法文)の発声で乾杯が行われ、参加者は世代や学部を超えた交流を行い、同窓生同士の、また熊本大学との絆を一段と強めていました。

会の終盤では、川上伸二熊本県大阪事務所次長(S61法)から県のPRが行われたほか、第41代応援団団長

の西本徹さん(理2年)と山口昌哉さん(法1年)から「巻頭言」及び「五高寮歌」が披露され、参加者は手拍子を打ちながら盛大に合唱しました。

最後には、桑野幸徳名誉会長(S43理)、相本太刀夫副会長(S41薬)から挨拶が行われ、盛況のうちに閉会となりました。



西山 多加志
関西連合同窓会会長

創造する森 挑戦する炎

井上雄彦 記す



熊本大学は、研究大学強化促進校^{*}の一つとして、
地域に根ざし、グローバルな活動を展開します。

※文部科学省が実施する研究大学強化促進事業。日本の研究力の強化を図るため、大学等の研究機関における研究マネジメント人材群の確保や集中的な研究環境改革等の、研究力強化の取り組みを支援する事業です。



熊本大学
Kumamoto University

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1

TEL.096-344-2111(代)

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

■黒髪キャンパス ■本荘・九品寺キャンパス ■大江キャンパス